

# スエーデン機務

毎月15日発行 定価1部700円

## 主張

### 国立国会図書館の入札に思うこと

国立国会図書館の電子化に伴う第2回目の入札が、去る5月18日と19日の2日間にわたって行われた。今回は前回の3分野に対して、8分野が入札の対象となった。その結果、第1回と同様に大日本印刷と紀伊国屋がそれぞれ落札している。この他、コダック、ムサシ、日商エレクトロニクス、ニチマイ、国際マイクログラフが落札した。今回は8分野ということで、予算も40億超という大型予算であった。しかし単価は相変わらず安値であり、厳しい状況であるが、不況ということを考えれば、有難い仕事というところになる。

ここで問題なのは、大日本印刷と紀伊国屋が情報処理分野において定番となってしまうということではないか。異業界種で

ありながら、情報処理業へ確固たる地位を築きつつあることは、ある意味では頭が下る思いである。従来のマイクログラフ業者に入札参加資格が無いと言ってしまうはそれまでであるが、問題は企業の将来ビジョン

である。不況産業といわれて久しい印刷業界と出版業界は、確固たる未来ビジョンを表明しなければならぬ。そうした時、展望の明るい情報処理に進出していくのは当然である。いずれは確固たるノウハウも構

築し、利益も確保できるようになるであろう。その時、弱小マイクログラフ業者の生き残る道は狭されてしまう。そのことを恐れている。こうした傾向は、そこかしこの業界にもみられる。複写加工業者もそのひとつである。将来ビジョンを確立することは難しいが、近未来は描けるはずだ。

20年前、脱複写をかけた印刷を旨とした業者があるが、現在は脱印刷をかけたXXを旨としている企業がある。生き残るためのひとつの指針となりそうだ。